

3 多文化共生社会

～行政レベル、市民レベルともに世界に開かれたまち

＜A 基本計画の目標＞

国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを進めます。
市民・市民団体の国際交流・協力活動を支援します。

＜B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度＞

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	トレンド
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	35.4 %	31.5 %	37.7 %	60.4 %	61.8 %	↗

＜C 目標達成に向けた22年度の実績と自己評価＞

自己評価

【生涯学習推進担当】

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント) 市内で活動している国際交流・協力団体と連携して「国際交流フェスティバル」を開催し、市と団体及び団体相互の情報交換のほか、各団体の活動状況を紹介するなど周知を図りました。 また、高校生を対象とした国際理解講座では、ワークショップを通して、国際支援の現状を学び、能動的な啓発を図りました。	◎
※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント) 外国籍市民の意思疎通の支援を目的とした通訳ボランティアは、行政手続きの窓口対応などを対象に3人派遣し、他に問い合わせなどが2件ありました。また、登録者は目標値に達しなかったものの、10人(従来1名程度)の登録者があり、外国語を含むホームページやチラシ作成が奏功したといえます。	○

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【生涯学習推進担当】

・外国人の意識、実態調査は必要。外国人登録申請時のアンケートでは不十分。職員によるヒアリング調査等費用のかからない方法を再検討してほしい。
・外国籍市民意識調査の検討はされているが実施に至っていない。まずは少人数(5人程度)のグループインタビュー等定性調査を実施してはどうか。
・多文化共生の指標が通訳ボランティア年間派遣回数であるのは疑問である。年間利用回数が数回若しくは利用がない当事業は見直すべき。通訳ボランティアは市民向けの外国語講座の講師としてスキルを生かしてもらってはどうか。
・「外国籍市民向けの質問項目の掲載について検討したが、言語等の問題から実現に至らなかった。」とあるが、このことで通訳ボランティアの協力・活用は図れないか。



外国籍市民の意識調査については、日頃から市内の外国籍市民と交流のある国際協力団体の協力を仰ぎ、実施を検討します。
通訳ボランティアは、行政手続きや窓口相談などで、外国籍市民の意思疎通の支援として登録者の確保を進めています。今年度は当該制度について、ホームページやチラシで周知を図ったところ、登録者や利用者が増加しました。また、登録者には文書の翻訳についても協力をいただきました。 なお、現在当該事項を目標指標としていますが、次回策定時にはより適切な指標を検討します。

<E 22年度未達成事業の課題・問題点など>

【生涯学習推進担当】

「活動拠点の整備」については、連絡会としての取組が未解決になっています。
外国籍市民の意識調査を行うことができなかったため外国籍市民の要望に応える対策を講じることができませんでした。
※未達成の理由<支障となった理由> 国際交流・協力団体との間で十分な調整、情報交換ができなかった。 外国籍市民の意識調査を行うことができなかったため外国籍市民の要望に応える対策を講じることができなかった。

<F 今後の展開(取組方針)>

【生涯学習推進担当】

国際交流・協力団体との協力関係の維持や情報交換を図る場として、「国際交流フェスティバル」の開催とあわせて、団体相互のネットワーク化の強化や国際交流・協力活動の支援を図るための活動の拠点づくりを目指します。
国際交流・協力団体などとの情報交換などによる実態の把握に努め、通訳ボランティアの有効活用など支援施策の充実に取り組んでいきます。
都市交流については、既存の制度を見直し、より多くの市民や市民団体の交流を推進していきます。
多文化共生社会に対する理解を促すため、青少年を対象とした国際交流事業を推進していきます。

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	H22年度 目標値	H27年度 目標値
通訳ボランティアの 派遣回数(十)	外国語通訳ボランティアの 年間派遣回数	4 件	0 件	0 件	0 件	2 件	5 件	6 件
通訳ボランティアの 登録者数(十)	外国語通訳ボランティアの 登録者数の合計	138 人	145 人	149 人	149 人	117 人	140 人	143 人
多文化共生社会の 浸透率(十)	日常的に外国人との交流 がある市民の割合	20.1 %	19.4 %	17.6 %	17.9 %	18.2 %	22 %	24 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	3,366千円	2,235千円	773千円					
	(国・県)	0千円	0千円	0千円					
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円					
	(一般財源)	3,366千円	2,235千円	773千円					
	人員配置数	1.0人	1.2人	1.0人					
	人件費 (B)	9,626千円	11,511千円	8,816千円					
	総事業費(A+B)	12,992千円	13,746千円	9,589千円					
	対前年比		105.8%	69.8%					

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・多文化共生推進に向けた取り組みは従来どおり行われていると思われる。
- ・「国際交流フェスティバル」等、人間同士の触れ合いの場が大切であり、その活躍に期待する。
- ・通訳ボランティアに文書の翻訳の協力を頂き、活躍の場を広げたことを評価する。



課題・提言

- ・通訳ボランティアが行政手続きの窓口対応などを対象に3人派遣されたデータがあるが、全体量としても少なく、継続的にこの事業の意義を問うていくことが必要。
- ・外国籍市民の意識調査を行うことがまだできていない。外国籍市民の要望に応える対策を講じる必要がある。前回の外国籍市民意識調査から約20年経っている。再調査も有効と思われる。
- ・通訳ボランティアを、小学校英語の特別非常勤講師(教員免許状を持たなくても良い)として、活躍の場を広げられないか。
- ・鎌倉には在住の外国人の方がいる一方、多数の観光客も来ている。多文化共生では、外国籍市民の方のみならず、観光で訪れた方々に提供できる災害マップや公共施設情報などを、外国籍市民や通訳ボランティアの方たちと共に作成して頂きたい。